

令和8年3月市長定例記者会見

日時：令和8年3月2日（月） 午後1時30分～

場所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
射水CATV、庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、市民活躍・文化課長、
環境課長、人事課長補佐

Q1. 職員採用試験に関して、今年から様々な変更があるが、過去の募集では、土木職などで定員に満たない、あるいは応募者が少ない状況はあったのか。また、上級、中級、初級の区分の定義は何か。

A1. これまで土木・建築技術者の募集枠において、定員に満たない、または受験者が少なく採用に至らないケースが多々見られた。年によって異なるが、土木技術者は2～4名の募集人数に対し、採用が1名にとどまっております。建築技術者も受験者自体が少ない状況であった。技術者の確保が難しくなっており、県を参考にしながら、本市においても土木技術者の先行枠に取り組むもの。

経験者について、県外などで活躍し、富山県、射水市に戻りたいと考える方がいた場合、通年募集という形であれば、タイムリーに試験を受けることができると考えている。通年募集は4期に分けて実施し、受験するタイミングによって、採用日が選択可能となっている。1期は10月採用、4期は翌年4月採用と決まっているが、2期は10月・翌年1月・翌年4月の中から本人の都合で選ぶことができる。また、3期は翌年1月もしくは翌年4月採用のいずれかを選択できる。このように、受験者の様々な思いや都合に合わせ、採用を柔軟化し、多様でより良い人材を確保していきたいと考えている。

募集要件については、上級は大学卒業、中級は短期大学・専門学校卒業、初級は高校卒業の年齢を応募資格としている。

Q2. 土木採用に関して、先行枠と通年募集1期の違いは何か。また、土木職の通年募集において、1期から3期にかけて多数の優秀な応募者があった場合、4期も実施するのか。

A 2. 経験者枠では、実務経験が3年以上で、2級土木施工管理技士または1級土木施工管理技士の資格を保有している必要がある。年齢制限も異なり、経験者枠は40歳までであるのに対し、先行枠は32歳までである。要件上、両方に該当する方もおられるが、試験内容は若干異なる。先行枠は、エントリー時に専門性確認シートを提出してもらい、1次筆記試験として、基礎能力検査、事務能力検査、適性検査などの筆記試験を実施し、その後1次面接、2次面接を行う。一方、経験者枠は専門性確認シートや1次面接がない。また、経験者枠はテストセンター方式を採用しており、射水市役所の試験会場に来場することなく、全国のテストセンターやWeb方式で受験が可能である。ご自身の時間の都合により受験できるため、時間の制約がある社会人の方でも、経験者枠に受験しやすいようにしている。

4期の実施について、市役所の職員定数を見ながらの判断となるが、ここ数年、人員確保が困難な状況にあり、技術者の年齢構成もかなり高めた現状を踏まえると、市としては可能な限り、若く新たな人材を確保したいと考えている。そのため、よほどの事情がない限り、4期も実施する方針である。

Q 3. 採用の受付時期はどれくらい早めになるのか。

A 3. 通常の募集枠は、4月から5月頃に募集を開始し、6月から7月頃に試験、面接を順次行い、大体9月上旬頃に内定を出すスケジュールである。一方、先行枠は6月上旬に結果が出るため、約3か月前倒しとなる。また、10月採用枠は、土木職に限らず行政職でも行っていたが、8月上旬に内定を出すため、既に仕事を辞めている方やすぐに動ける方でなければ、応じられない状況であった。しかし、合格発表を6月上旬に早めることで、10月の採用に向けて自身の様々な手続きも可能になると考えている。

Q 4. 受付は1か月ほど早いということか。

A 4. そのとおりである。1か月から1か月半ほど早い。

Q 5. 小論文を全面的廃止した理由は何か。

A 5. これまでテーマに沿った自身の考えなどを小論文で記述してもらっていた。評価基準に則って点数化しつつ、面接官もその人となりを見るための参考としていたが、人物重視の採用を進める中で、面接で実際に考えを聞くことも可能である。また、非常に興味のある内容が記述されていても、採点基準に沿うと、必ずしも高い点数に繋がらないといったケースもあり、小論文の採点基準が曖昧であったことも課題であった。そのため、小論文を廃止し、面接で様々な話を聞くこととした。

Q 6. PR 動画について、目標視聴回数が達成できたことへの思いを教えてください。

A 6. 正直、この動画を作成した際、132万回再生はかなりハードルが高いと感じていた。射水を知ってもらうプロモーション動画であり、見てもらうことが重要であるため、目を引く工夫を凝らした内容が、視聴を促す効果があったと感じている。また、この動画の中でも話しているように、「射水」がその通り読んでもらえない現状を少しでも改善したいという思いがあったため、多少なりとも、「そういえば射水ってなんか見たな」と思ってもらえればありがたい。

Q 7. オレンジキャンペーンについて、市民の中で女性に対する理解がどのように深まっているか教えてください。

A 7. 今回で6回目となるが、新たに射水まちづくりネットワークと富女会 in IMIZU の2団体から参加を得ている。射水まちづくりネットワークは女性が代表者の団体であり、女性の視点から住みよい射水のまちを目指している。最近の活動では、防災士の講習などを受け、災害対応について女性の視点から協力する取組を行ったり、環境に優しい取組を行ったりしている。また、富女会 in IMIZU は、射水市が令和5年度から開催している女性活躍推進セミナーを契機に発足した団体である。このセミナーは、射水市はもとより、県内で活躍する女性やこれから一歩踏み出そうとする女性を応援し、女性同士の繋がりを育み、先輩の経験に学ぶ機会や交流の場を提供しようと実施されてきたものである。令和6年度に開催した同セミナーは、一般社団法人とやまのめに企画運営を委託し、インスタグラマーえみこむさんをホストとして迎えて実施した。これをきっかけ

に、女性が自ら何かを行おうとするコミュニティや女性を応援するコミュニティが立ち上がり、その活動を紹介できることが効果として表れている。

Q 8. 小学6年生へのいみずサクラマス寿司のプレゼントは初めての実施か。

A 8. そのとおりである。

Q 9. 配布するものは資料右下の写真のものを一人1個ずつか。

A 9. そのとおりである。